

第十八改正日本薬局方解説書—条文・注・解説— 正誤表

(令和3年12月4日 初版発行)

頁	行	誤	正
A-15	↓3	鉛 (Pb)	鉛 (Pb)
B-722	↓10	9000mL	900mL
B-821	↑11	70%未満である	80%未満である
B-1333	↑16	(C ₂₂ H ₂₈ FN ₃ O ₆ S) ₂ Ca	(C ₂₂ H ₂₇ FN ₃ O ₆ S) ₂ Ca
B-1360	↑11	日本工業規格	日本産業規格
C-563	↑12～10	薬効薬理 ニトロ化合物に共通の作用を現す。即ち、分子内から一酸化窒素 (NO) を遊離し、これが血管細胞内のグアニル酸シクラーゼを活性化し、細胞内サイクリック GMP を増量して血管平滑筋の弛緩を起こす。(→ ニトログリセリン)	薬効薬理 体内でほとんど代謝を受けないため、濃厚液を大量に投与すると組織中の水分を血液中に移動させる。腎糸球体で容易にろ過され、糸球体ろ過量を増加させるとともに、尿細管で再吸収されないため、尿細管腔内の浸透圧が上昇し、水の再吸収が抑制される。その結果、電解質及び水の排泄が増加し、組織中の水分量が減少するため、頭蓋内圧や眼圧が低下する。
C-563	↑9～8 差し換え	副作用 頻度の高いものとしては、頭痛、悪心・嘔吐などの消化器症状などがあり、その他、発疹、(長期連用) 電解質異常などに注意が必要である。	副作用 ショック、アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、発疹、呼吸困難、血圧低下、動悸等の異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行う。その他、頭痛、悪心・嘔吐などの消化器症状などや、発疹、(長期連用時の) 電解質異常などに注意が必要である。
C-563	↑7～5	相互作用 重要な基本的注意：本薬とアステミゾールを併用すると、QT 延長、心室性不整脈を起こすおそれがあるので、本薬投与中はアステミゾールを併用しない。	削除
C-1466	↓3	Besylate	Besilate
C-3023	↓11～12	約 0.9 の類縁物質 D 及び上記以外のピークの面積は、標準溶液のゾピクロンのピーク面積の 1/10 より大きくない。	約 0.9 の類縁物質 D のピーク面積は、標準溶液のゾピクロンのピーク面積の 1/10 より大きくなく、試料溶液のゾピクロン及び上記以外のピークの面積は、標準溶液のゾピクロンのピーク面積の 1/10 より大きくない。

頁	行	誤	正
C-3138	↑ 3	Na ₂ CO ₃ 52.99mg に対応する (→ 炭酸ナトリウム注6)	Na ₂ CO ₃ 53.00mg に対応する (→ 炭酸ナトリウム水和物注6)
C-3886	↑ 7	副作用 特別なものは知られていない.	削除
C-3886	↑ 3	酸素吸入に併用する場合には, 純酸素に対して 5~10vol%を混合する.	酸素吸入に併用する場合は通常純酸素に対して 数%本品を混ぜる.
C-3886	↑ 1	追加	その他 注意点: 二酸化炭素を高濃度に含むガスをヒトが吸入すると, その毒性により数分で致死的になることが知られている. したがって, 本品 (局方二酸化炭素) を直接吸入させることは避けること.
C-4077	↓ 19	50.0 mg	50 mg
C-4082	↑ 2	50.0 mg	50 mg
C-4086	↓ 16	50.0 mg	50 mg
C-4089	↑ 2	50.0 mg	50 mg
C-4255	↓ 12	類縁物質 L 及び約 1.13 の類縁物質 K	類縁物質 K 及び約 1.13 の類縁物質 L
D-352	↑ 17	1-ブタノールと振り混ぜ, 1-ブタノール層	1-ブタノールと振り混ぜ, 1-ブタノール層
D-590	↓ 3	幅 0.1~0.5 mm	幅 0.1~0.5 cm
D-747	↑ 6	本品の 1.0 g	本品 1.0 g
D-1018	↓ 13	定量用サイコサポニン b ₂ 標準溶液	定量用サイコサポニン b ₂ 標準試液